

表 題 療育サービスに対する“満足度”と個人的・社会的背景との比較検討調査

分担研究 発達的な観点から見た療育指導の在り方に関する研究

研究協力者名 八木隆三郎¹

要 約：障害児の療育は保健、医療、福祉、教育等の社会的システムが連携し総合的に機能することにより有効性を発揮するものである。また、療育の有効性は障害児の医学的障害や社会的ハンディキャップの軽減だけで評価できるものではなく、障害児と親が各種の療育サービスに対しどの程度満足したかと言う尺度によっても評価できる。

本研究では、療育の過程で関わる保健、医療、福祉、教育等のいろいろな局面での療育サービスに対する親の“満足度”をアンケートにより調査し、障害児の個人的・社会的背景と比較検討し、効率良く有効的に療育サービスを提供するための療育システムのあり方を検討する。

見出し語：療育システム、満足度

研究方法：神戸市立の肢体不自由児通園施設2施設、肢体不自由児養護学校2校、兵庫県中央部の事務組合立肢体不自由児通園施設、兵庫県立肢体不自由児施設、それぞれに通園・通学・通院している運動発達障害を伴う乳児・幼児・児童の親を対象として、療育の過程での各局面における“満足度”と、それに影響を及ぼす個人的・社会的背景を、アンケートにより調査する。

この調査は、児童相談所と各施設、学校、及び対象となる親の了解のもとに行う。

アンケートの解析では、どのような背景のグループが、どのようなことに不満を持ちやすいかを分析し、療育の各局面における介入の方法

を検討することにより、療育サービスを受ける側が満足感の得られる療育指導のシステム化を考える。

現在、アンケートの実施に向け準備段階である。

文献：(1) 町田裕一，ら．群馬県における重症心身障害児の実態調査と有病率について．脳と発達 1993；25；237-9.

(2) 町田裕一，ら．群馬県における重症心身障害児の実態調査—機能，原因，合併症，既往歴など—．脳と発達 1993；25；423-7.

(3) 青木継稔．障害児とその家族に対するヘルス・プロモーション．脳と発達 1995；27；176.

¹ 兵庫県立のじぎく療育センター小児科



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約:障害児の療育は保健、医療、福祉、教育等の社会的システムが連携し総合的に機能することにより有効性を発揮するものである。また、療育の有効性は障害児の医学的障害や社会的ハンディキャップの軽減だけで評価できるものではなく、障害児と親が各種の療育サービスに対しどの程度満足したかと言う尺度によっても評価できる。

本研究では、療育の過程で関わる保健、医療、福祉、教育等のいろいろな局面での療育サービスに対する親の“満足度”をアンケートにより調査し、障害児の個人的・社会的背景と比較検討し、効率良く有効的に療育サービスを提供するための療育システムのあり方を検討する。